

園芸学会賞(学術賞)(昭和31年～平成18年) 園芸学会賞(平成19年～) 歴代受賞者

年度	受賞者	テーマ
昭和31年	阿部定夫(九州農試園芸部)	カノコユリの研究
昭和32年	森田義彦(農技研園芸部)	果樹園土壌の研究
昭和33年	鳥潟博高(名古屋大農学部)	ニホンナシの黒斑病の罹病機作に関する研究
昭和34年	佐藤公一(農技研園芸部)	果樹の葉分析に関する研究
昭和35年	篠原捨喜(静岡農試)	十字花科作物を中心とした抽だい開花現象の種生態学的研究
昭和36年	尾崎元扶(中国農試)	オリーブに関する研究
昭和37年	岩崎藤助(園試)	カンキツの花芽分化と隔年結果防止に関する研究
昭和38年	明道 博(北海道大農学部)	ユリの不ねん性に関する研究
昭和39年		
昭和40年		
昭和41年	大沢孝也(大阪府大農学部)	そ菜の塩害に関する研究
昭和42年	中川昌一(大阪府大農学部)	ブドウ果実の発育ならびに生理的障害に関する研究
昭和43年		
昭和44年	平井重三(大阪府大農学部)	油処理によるイチジク果実の成熟促進に関する研究
昭和45年	嶋田永生(愛知総合農試)	老朽化そ菜ほ場の土壌肥料学的研究
昭和46年		
昭和47年	堀 裕(園試)	温度と光条件に対するそ菜の生育反応に関する研究
昭和48年		
昭和49年		
昭和50年	傍島善次(京都府大農学部)	カキ果実の発育に関する研究
昭和51年	青葉 高(山形大農学部)	球根作物の球形形成に及ぼす温度の影響
昭和52年	久保田収治(四国農試)	温州ミカンの窒素栄養および有機酸代謝に関する研究
昭和53年		
昭和54年		
昭和55年		
昭和56年	邨田卓夫(静岡大農学部)	カンキツ果実の生理および貯蔵に関する研究
昭和57年		
昭和58年	内藤隆次(島根大農学部)	ブドウの結実並びに生育に関する研究
昭和59年		
昭和60年		
昭和61年	中村怜之輔(岡山大農学部)	青果物の輸送環境条件に関する研究
昭和62年		
昭和63年		
平成元年		
平成2年		
平成3年		
平成4年		
平成5年		
平成6年		
平成7年	宍戸良洋(野菜・茶試盛岡支場)	トマトにおける光合成産物の動態と収支に関する研究
平成8年		
平成9年		
平成10年		
平成11年	黒田治之(果樹試)	リンゴ樹の耐凍性と凍結障害に関する生理・生化学的研究
平成12年		
平成13年		
平成14年	安藤敏夫(千葉大学園芸学部)	ペチュニア属遺伝資源の評価、利用に関する研究
平成15年	岡本五郎(岡山大農学部)	ブドウの結実に関する生理学および組織形態学的研究
平成16年	平塚 伸(三重大学生物資源学部)	ニホンナシ花柱タンパクの解析による自家不和合性の研究
平成17年	細木 高志(島根大学生物資源科学部)	栄養繁殖系花きを中心とし培養系および再生系の確立に関する研究
平成18年	稲葉 昭次(岡山大学農学部 総合農業科学科)	果実におけるエチレンの生合成及び信号伝達の内的調節機構の解明と品質保持技術の向上に関する研究
平成19年		
平成20年	新居 直祐(名城大学 農学部)	果樹の器官・組織形成に関する形態学的研究
平成21年	小林 省蔵(農研機構 果樹研究所 ブドウ・カキ研究チーム)	ブドウのアントシアニン合成制御機構に関する研究
平成22年	佐藤 茂(京都府立大学大学院生命環境科学研究科)	カーネーションの老化誘導におけるエチレンの分子機構の解析と利用に関する研究
平成23年	櫻井 直樹(広島大学大学院生物圏科学研究科) 田村 文男(鳥取大学農学部)	青果物の軟化と食感の物理的測定法に関する研究 ニホンナシの生産安定を目的とした栽培生理学的研究
平成24年	山内直樹(山口大学農学部)	ストレス処理による園芸作物の品質保持とその機構解明に関する研究
平成25年		
平成26年	田尾 龍太郎(京都大学大学院農学研究科)	サクラ属果樹の自家不和合性認識反応特異性決定因子に関する基礎および応用研究
平成27年	山田 昌彦(農研機構果樹研)	果樹の交雑育種法に関する研究
平成28年	金山 喜則(東北大学大学院農学研究科)	果実の生産と品質向上を目的とした糖の代謝と蓄積に関する生理学的研究
平成29年		

年度	受賞者	テーマ
平成30年	片岡 郁雄(香川大学農学部)	マタタビ属自生資源の探索・特性評価とキウイフルーツ育種・栽培への活用
平成31年	森口 卓哉(農研機構果樹茶業研究部門)	地球温暖化に関わる果樹の休眠と着色の生理学的研究
令和2年	山本 俊哉(農研機構知的財産部)	ナンなどのバラ科果樹のゲノム解析に関する研究
	市村 一雄(農研機構野菜花き研究部門)	花きの収穫後生理に基づく品質保持技術の開発に関する研究
令和3年	久保 康隆(岡山大学大学院環境生命科学研究科)	果実の成熟・軟化機構に関する研究 ーエチレン誘導性成熟と低温誘導性成熟の分子機構解析とその利用ー
	東出 忠桐(農研機構野菜花き研究部門)	物質生産特性を利用したトマト等の多収化および生育・収量予測に関する研究